

両沼地方稲作情報 第6号

令和6年7月30日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)
" 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区



QRコード

会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。
その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

「両沼」+「稲作情報」で検索！

⚠️高温障害が懸念されます！

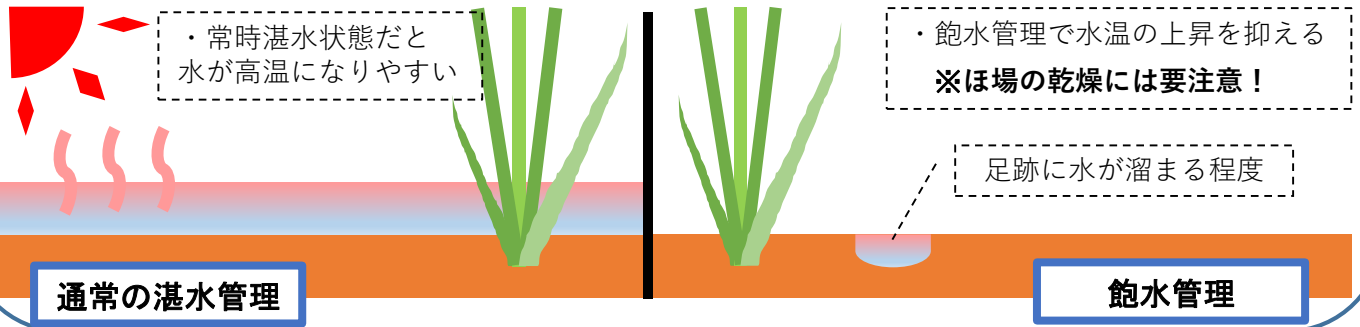
⚠️草丈が長いほ場が多く、風雨による倒伏が懸念されます！

1 気象情報（気象庁 東北地方 1か月予報（7/20～8/19））

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。平均気温は、高い確率80%です。

⚠️高温障害が懸念されます！

登熟期前半（出穂後20日間程度）に高温（日平均気温26℃～27℃以上）が続くと、白未熟粒等の品質低下が懸念されます。高温が続く場合は、地域の水量を考慮し、**飽水管理**（ひたひた水状態）等で地温の上昇を抑制しましょう。



2 生育状況

草丈及び葉色は平年よりも大きい傾向があります。出穂期は平年並ですが、平年より3日程度早いほ場も見られます。

表1: 水稲作柄解析試験データ(会津地域研究所7/23時点) ※移植日: 5/18、栽植本数: 20.8株/㎡(30cm×16cm)

品種名		草丈(cm)	茎数(本/㎡)	主稈出葉(葉)	葉色(SPAD値)	(予想)出穂期
コシヒカリ	本年	93.7	553	12.6	33.3	(8/3)
	前年	92.6	619	12.8	33.4	8/3
	平年比	109%	93%	-0.1	+1.4	-2
ひとめぼれ	本年	86.4	635	12.5	37.4	(7/29)
	前年	90.0	625	12.9	37.9	7/29
	平年比	106%	98%	-0.4	+0.5	-1
天のつぶ	本年	81.2	594	12.1	38.1	(7/31)
	前年	85.1	602	12.3	40.5	7/31
	平年比	105%	100%	+0.1	-0.3	-1

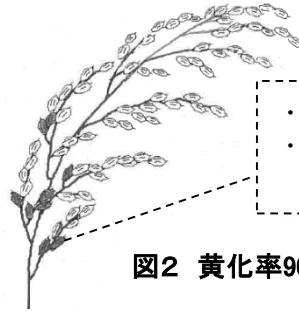
3 品質向上対策

(1) 落水時期について

- ・開花後25日間は米粒が急速に肥大しますので、間断灌漑により少なくとも出穂後30～35日は水を切らさないようにしましょう（ほ場の土壌条件や気象によって落水時期を調整）。

(2) 適期刈取りについて

- ・高温により登熟が進み、刈取り適期が平年よりも早まることが予想されます。
- ・出穂後日数及び積算気温を参考に収穫作業計画を立て、実際の籾の黄化率を確認して適期刈取りを行いましょう。
- ・刈取り時期の目安は、おおむね出穂40～45日後で、出穂後の積算気温が950～1050℃に達し、籾の黄化率が80～90%になった時期です。



- ・黄化していない緑色の籾
- ・下位の一次枝梗籾や、二次枝梗籾の黄化が遅い

図1 収穫日の判断のしかた

図2 黄化率90%の稲穂

表2 出穂後の積算気温(予想を含む)に基づく刈取適期到達日

品種	出穂期 (平年値)	到達日(予想)			
		950℃	1,000℃	1,050℃	1,100℃
ひとめぼれ(平坦部)	8月1日	9月9日	9月11日	9月13日	9月15日
コシヒカリ(平坦部)	8月6日	9月15日	9月17日	9月20日	9月22日
ひとめぼれ(山間部)	8月4日	9月16日	9月18日	9月20日	9月23日
直播コシヒカリ(平坦部)	8月10日	9月20日	9月23日	9月25日	9月28日

※7月21日までは実測値(日平均気温)を、それ以降は日平均気温の平年値(過去30年間)を使用した。
※平坦部は若松アメダス、山間部は金山アメダスのデータを使用した。
※出穂期は、作柄概況調査の平年値を使用した。

⚠️草丈が長いほ場が多く、風雨による倒伏が懸念されます！

- 倒伏により受光体勢の悪化および通導組織(茎)の損傷が発生します。
- 軽度の倒伏では、登熟遅延となるため、ほ場毎に登熟を確認し、適期刈取りしましょう。
- 重度の倒伏では、登熟不良となり、収量・品質が低下します。
- 倒伏により地面に密着した籾は、冠水や降雨が続くことで穂発芽が発生しやすくなるため、その前に刈取りましょう。
(※「里山のつぶ」は穂発芽しやすいため特に注意！)



図3 倒伏ほ場

4 秋の稲わらすき込みについて

稲わらは貴重な有機資源です。燃やさずに、水田にすき込むなど有効に活用しましょう。生わらのすき込みは、土壌を柔らかくし、地力を増やす効果があります。

稲わらのすき込みは、秋に行うことで春すき込みよりも腐熟が進み、土壌の強還元化による生育障害が軽減されます。ポイントは、収穫後できるだけ早く、浅耕(5cm程度)とし、稲わらの分解を促進させることです。また、石灰窒素(20kg/10a)等の施用も効果的です。

※春の作業性を考慮し、実施するほ場を選定しましょう！

○今年も節水に御協力をお願いします。

○収穫作業の際は、コンバインの事故(転倒・巻き込まれ等)にご注意ください。